

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 0893100057 | | |
| 法人名 | 株式会社 セントメディケア | | |
| 事業所名 | グループホームひぬまの杜 | ユニット名(| 2階ユニット) |
| 所在地 | 〒311-3124 東茨城郡茨城町中石崎1055 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 2年 5月29日 | 評価結果市町村受理日 | 令和 年 月 日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------|
| 評価機関名 | 一般社団法人 いばらき社会福祉サポート |
| 所在地 | 水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階 |
| 訪問調査日 | 令和2年7月28日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひぬまの杜は自然の中であり、四季折々の草花や木々の変化が感じられる環境です。利用者様の自立支援や個別ケアに力を入れ、その人らしく生活できるよう支援する一方で、ターミナルケアを希望されるご家族様にも柔軟に対応しています。また、喀痰吸引ができる職員の育成を行い、医療依存度の高い方の受け入れ体制を整えています。ご家族や地域との交流を大切にし、来訪しやすいホームづくりを心がけ、地域の認知症相談窓口としても働きかけています。平成29年12月より認知症カフェ(杜の茶話会)も始めました(偶数月の第4木曜日)。災害対策では年に2回、自衛消防訓練を行い、毎月、各ユニットごとに避難訓練を行い備えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| | |
|---------------------------------|--|
| 外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入) | |
|---------------------------------|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝の申し送りの最後に理念を読み上げている。よって職員同士共有し、日々意識化でき取り組むことができる。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 当グループホーム主催の夏祭りやクリスマス会、運動会等の行事では近隣の方やご利用者家族、幼稚園児に参加して頂き交流を図っている。 3月頃よりコロナウイルス感染症拡大より自粛となった。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 資格を有する職員を配置しているため、玄関先に認知症の相談窓口である貼り紙をしている。2ヶ月に1度の認知症カフェ(杜おん茶話会)開催し、認知症についての理解を深める機会を設けている。コロナウイルス感染症拡大と共に自粛となっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1度運営推進会議を開催し家族代表者、近隣の方、他様々な方より意見を頂いている。運営推進会議の中に身体拘束適正委員会も設け、行政、地域、ご家族の皆様にも意見を頂きながら過剰さはないか確認したり、方向性を相談している。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に参加してくれている職員が窓口になってくれている。何かあれば電話で相談や質問をしている。時には役場窓口まで行くこともあるが、現在はコロナウイルス感染症の影響でメールや電話でのやりとりが主となっている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ご利用者の身体に危険を及ぼす場合は家族の同意を得た上で身体拘束をする場合がある。試行錯誤の結果、2階ユニットでは身体拘束を解除することができ、現在身体拘束対象者はいない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待についての勉強会が開かれ、虐待防止について意識化することができた。職員間で虐待になるかならないか確認し合っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 全体会議の中で最低でも年に1回は勉強会を設けているが、現在成年後見制度等を利用している方がいないため、活用には至っていない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は丁寧な説明を心がけている。改定時は文書を送付している。分からないことがあればいつでも質問してくれるよう声かけしている。また文書等にも“不明な点はお気軽にお問合せください”の文言を入れている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族が面会に来た際は普段の様子を報告し、家族からも意見を出し易い雰囲気づくりを心がけている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 申し送りやミーティングで職員の意見を吸い上げしている。良い意見が出た場合、試してみることもある | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員それぞれの都合を聞いて勤務表作りをしている。資格取得に関して、励ましや勤務調整等の協力をしている。3歳児未満を子育て中の短時間正社員もいる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 参加できる研修は受けてもらうようにしている。全体会議の場で研修内容を報告する。代表者は管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 町のケアマネ研究会への参加。町他職種連携研究会等への参加を促している。希望する職員は参加していたが、現在はコロナウイルス感染症拡大の影響で自粛中である(外部研修自体が中止となっている)。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居し間もない時は特に耳を傾ける姿勢を取り話しやすい雰囲気づくりを心がけている。一日も早くホームに慣れて頂けるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居し荷物を持ってきて頂いた際、家族の要望がないか伺っている。対応が悪いと家族を不安にさせてしまう恐れもあるので良い印象を持って頂ける様心がけている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族が必要としたサービスでもケアしていく中で、職員同士相談し必要でないと判断した場合は除くこともある。本人にとって一番良いケアを見極めてケアしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご利用者一人ひとりのADLが維持できるように、できることはして頂いている。人生の先輩として一人の人間として学ぶべきことが多々ある。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 普段の会話より家族に対する思いを話して頂けるよう傾聴し、家族の思いも伝え、ご利用者と家族との絆を大切にしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人が入居前より長年続けてきたボランティア活動、趣味活動の継続ができるよう支援している。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者同士トラブルが起きた時は職員が仲裁に入り、可能な場合は席替えをすることもある。隣の方の食食用エプロンをつけてくださったり、同テーブルの他の方の下膳をお手伝いして下さり互いに支え合いよい関係が築けている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院されたご利用者の面会に行ったり、様子を聞いたり、必要に応じて本人、家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 健康管理により食事制限・療法があっても好きな物を食べたいという希望が多く、季節の行事や誕生日には特別の日として制限緩和している(本人の状態による)。同じ方の意向ばかり聴くことにならないよう一人ひとり順に話を聴くようにしている | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用始めの頃のアセスメントに留まらず、日々の会話からも吸い上げている。 各職員は個人のケース記録の情報を読むことで本人の理解に努め、カンファレンスで情報共有の確認をしている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の状態を介護記録に残すことで変化や異変等に気づきやすくしている。また特に注意すべきことは口頭でも申し送っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ミーティングを利用し参加職員から気になることを意見してもらっている。日々の業務の中でも職員間で意見交換し介護計画に生かしている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケース記録に日々の気づきを記録している。身体的な変化や経過については朱字で記入したり、赤線を引いたりして情報共有しやすい工夫している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご家族が対応できない方に関しては生活用品の購入代行したり、本人の嗜好品を購入代行している。入院時の購入代行や洗濯支援等も希望があればしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の方、ご家族、訪問理容、往診、訪問歯科、訪問マッサージ、幼稚園園児等の来訪があり、豊かな暮らしが送れるよう支援している。現在はコロナウイルス感染症の影響で一部制限もある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご家族の希望により入居前にかかっていた病院に行く方もいる。糖尿病など持病のある方には専門のかかりつけ医に受診し、透析必要な方は週3回の送迎もしている。特に希望のない方はホームドクターの往診を受けることもできる。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護士は看護師に報告連絡相談を適確に行い協力して支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ご利用者の入院時には介護サマリー等の情報を提供し、入院中のご利用者の状態把握のため面会に行っている。又、家族に協力を求め、病院側と家族との面談の際には同席させてもらうこともある。退院時は介護サマリー等の情報提供を受けている。退院時に口頭で注意事項の説明を受けることもある。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | まずは契約時に事業所の指針を説明している。また必要になった時に再度説明すると共に、本人ご家族の要望をヒアリングして支援内容に盛り込むよう努めている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 普通救命講習は全職員が受けている。年間研修計画でも必ず急変時対応は入れており、外部研修にも積極的に参加してもらっている。外部研修は現在コロナウイルス感染症の影響により自粛中。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 月1回の避難訓練や年1回の自衛消防訓練に参加し、災害時にはどうしたらよいかスムーズに行動できるよう実践している。近隣の方々にも災害時に協力して頂けるようお願いしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人生の先輩として一人の人間として学ぶべきことが多々ある。人格を尊重し声かけに気を配っている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の希望を傾聴し、可能な限り希望にそえるようにしている。自己決定してもらえるよう選択できるような問いかけにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースを大切にしていきたいと思っても、即座には希望にそえない場合がある。「ドライブへ行きたい」と希望があった時は調整し対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎日午前までに整容して頂くよう声かけしている。外出時には服のコーディネートしたり、スカーフをつけて頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 野菜の皮むき、野菜切り、時には味付けまで手伝って頂き、出来上がりを楽しみなものになるようにしている。毎食、食器拭きのお手伝いをして頂いている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分量、食事量をその都度確認し記載している。水分、塩分、カリウム制限のある方はそれに応じて配慮し提供している。場合によっては好みの飲み物を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後、口腔ケアをしている。磨き残しがある方は職員が仕上げ磨きをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 介助の必要な方は毎食後トイレに座って頂く。車椅子の方(立位困難)は居室にておむつ交換、便意の訴え、トイレに行きたいと訴えがあった場合ポータブルトイレに2人介助で座って頂く。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | バランスのとれた食事、毎日の体操、それでも便秘の方には薬の服用をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめることができる。その日に入浴の気が向かない場合は翌日や別の時間に変更している。又、シャワー浴など希望にも応え、週4回入浴している方もいる。 潔癖症の方には入浴はできる限り1番になるよう心がけている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夏、冬、エアコンの調整には配慮している。寝る前に室内や布団を温めたり、濡れタオル等を使って湿度調整もしている。また、「もう寝ていいの?」と聞いて来る方には「大丈夫ですよ。」と伝え安心して眠れるよう努めている。また、常に快適であるようベッドメイキングにも努めている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の用量、用法、副作用について確認し理解している。服薬後症状の変化を確認し、職員間で相談、状況によっては、かかりつけ医、薬剤師に相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯物たたみ、食器拭き、野菜切り、居室お掃除機かけ、布切り、雑巾縫い、広告で箱づくりを頼んでいる。1階に入居している奥様に会いに行くなど、その人らしく暮らしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 桜、藤、あじさい、季節を感じて頂けるよう皆で外出している。ぶどう狩りや千波湖ドライブなども行った。家族の協力がある方は年に数回お墓参りに出かけている。好評だったのは、千波湖散策と好文カフェでのお茶タイム。再度リクエストがきている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の同意のもと、本人がお金を所持している。毎月、直接新聞代を支払ったり、買い物代行の際、そこから支払をして頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族の同意のもと、希望があった場合、電話の取り次ぎをしている。親戚や知人から手紙が届いた場合、本人に渡している。携帯電話を所持している方もいます。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | テレビが観やすいように2ヶ所に設置している。ソファを所々に置くことで好きに座ることができる。季節のテーブルは花を飾っている。施設内の温度調整はご利用者の体感にも気を配り職員がその都度温度管理を行っている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 桜の季節は中廊下より花見見学されているご利用者がいた。午後、西日当たる場所に椅子を移動し日なたぼっこされたり、日の当たるソファで昼寝をしたりする方もいる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅より使い慣れた衣装タンスを持参し、そのまま自室で使っている。亡きご主人の写真やお孫様の写真、家族の集合写真を飾っている。ご主人の位牌を持ち込まれ毎日手を合わせている方もいる。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや廊下に手すりを設置している。廊下を歩行練習するのに手すりに掴まりながら安全に歩かれている。 | | |